

エストレージャス初V

小学生の部

体張ってゴール死守



【エストレージャス、FC—桑野サッカースポ少】後半、体を張ってボールを奪いに行くエストレージャス、FCの大森(右)=西部第2体育館

初の郡山カップのタイトルを手にしたエストレージャス、FC(郡山)。決勝では前半に3-3と同点に追い付かれたが、途中出場の大森陽斗(薫小6年)が攻守で存在感を示し、起用に応えた。「楽しい大会だった」と、笑顔を見せる。

「守りの乱れを修正しなかった」との、倉沢飛輝監督の序盤の判断が奏功した。大森は「相手を前に向かせず、シュートをさせないようにした」と、当たり負けしない粘りのディフェンスで相手にプレッシャーを掛け続け、ゴールを死守した。さらに後半終盤、「得点を狙っていた」と絶妙なパスから中央を突破、右足を振り抜き、チーム10点目を挙げて優勝を決定付けた。チームは、フットサルのバーモントカップや全日本少年サッカーなど、三つの主要な県大会を制覇し、郡山カップ優勝で4冠を獲得した。だが「もっとプレーを磨きたい」と大森。将来のJリーグ入りを夢見て、さらに上のステージを見据えた。(佐藤雄)

◇小学生	▽準決勝	▽得点者【エ】梅津、熊田3、矢田
エストレージャス	5 (4 0 0)	0 アストロ
FC		
▽得点者【エ】梅津、熊田3、矢田		
桑野サッカースポ少	5 (4 0 1)	1 中央ドリー
カースポ		
▽得点者【桑】中村2、藤田、水野		
2【中】半決		
▽3位決定戦		
アストロ	2 (1 0 0)	0 中央ドリー
▽得点者【ア】小野、佐藤		
▽決勝		
エストレージャス	10 (7 3 0)	3 桑野サッカースポ少
FC		
▽得点者【エ】大森、梅津3、熊田5、矢田部【桑】藤田2、水野		

大槻(桑)成長約束

⊙「自分たちのプレーをするのができた」。桑野サッカースポ少(郡山)の大槻桃華(富田東6年)は準優勝に胸を張った。昨年11月の全日本少年サッカー県大会では1回戦負けを喫した。「県大会では団結力が足りなかった。でも、その後の練習で、自分たちで考えて、意識を高くして取り組めるようになった」と敗戦を糧に成長。決勝でも、先制点を挙げると、組織的な細かいパス回しから再三好機をつくってみせた。

中学校入学後はベガルタ仙台レディーズユースに進む。大槻は「このチームで得た経験を生かして、もっと強くなる」と力を込め、成長を約束した。

⊙「今後はレベルを高めるため、努力したい」と意欲を見せた。



得点王に熊田喜び

⊙エストレージャス、FC(郡山)の熊田直紀(写真、海老根6年)が2次ラウンド(県大会)通算22得点を挙げ、小学生の部の得点王に輝いた。「うれしい。勝ちたいという意識が得点につながった」と振り返った。決勝では前半、3-3と同点に追い付かれたが、ヘディングシュートやミドルシュートなどでゴールを重ね、5得点を決めた。大会を通じ、「チャンスをもたせた」と喜ぶ。

主催=郡山カップフットサル実行委員会(郡山市、郡山市教委、県サッカー協会、郡山サッカー協会、福島民友新聞社)
▽特別協賛=ゼビオグループ▽後援=県、郡山市体協、読売新聞東京本社福島支局、福島中央テレビ、ふくしまFM



初優勝したエストレージャス、FC